

■近年、アサリ資源は全国的に減少傾向にあり、本県も例外ではない。平成25～29年度にかけて、浅口市寄島町の人工干潟において、アサリ資源の現状及び減少要因を明らかにし、有効な増殖手法を検討した。

■季節別にアサリの生息密度を調査したところ、春季の生息密度は平均536個/m²であったが、秋季には20個/m²まで減少した(図1)。

■アサリ減耗防止対策として、干潟内5地点にかぶせ網(2.5×2.5m)を設置した(図2)。5か月後の平均残存率は約70%で、かぶせ網内ではアサリが高密度に生息していることが確認されたが、かぶせ網の隣接地に設けた対照区では、ほとんど残存していなかった(図3)。

■アサリ減耗要因を明らかにするため、干潟内に水中カメラを設置し、撮影を行った。その結果、クロダイが頻繁にアサリを捕食することが確認され(図4)、減耗要因の一つとして、クロダイによる食害が考えられた。

■干潟内4地点に二重網(1.25×1.25m)を設置し、アサリ稚貝を天然採苗した。9か月後には、二重網では対照区の約3倍の稚貝が得られた(図5)。その稚貝を干潟に放流後、かぶせ網を用いて養成したところ、5か月後には商品サイズ(約30mm)にまで成長した(図6)。

■今後は、実用化を念頭に置き、かぶせ網の規模の拡大を目指すとともに、アサリ増殖手法について普及啓発していきたい。

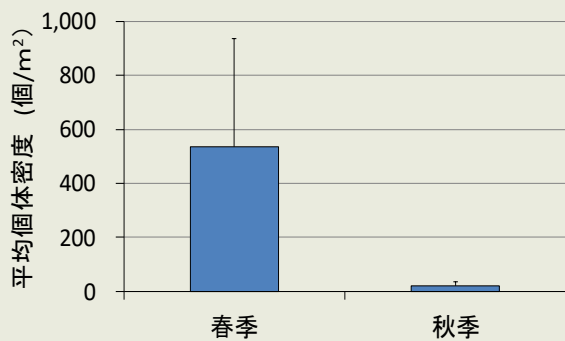


図1 人工干潟のアサリ生息密度の季節変化



図2 かぶせ網の設置状況

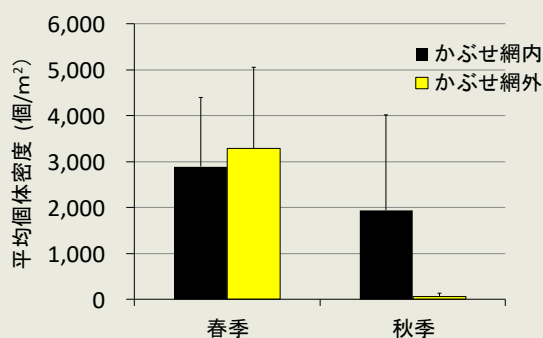


図3 かぶせ網内外のアサリ生息密度の推移



図4 クロダイによるアサリの捕食

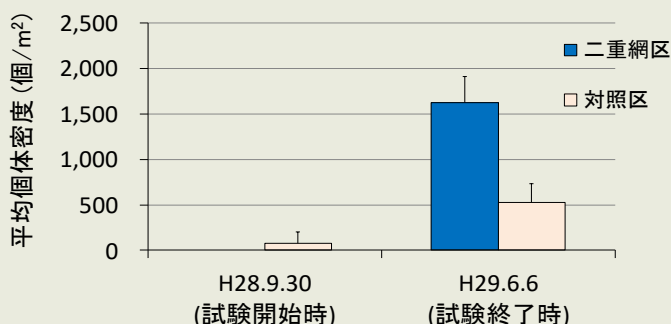


図5 二重網天然採苗による平均個体密度の推移

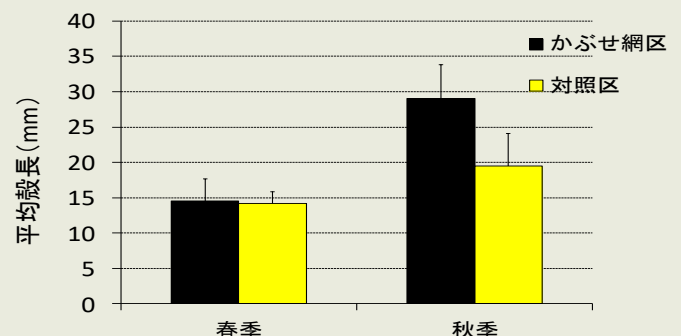


図6 かぶせ網により養成したアサリの平均殻長の推移